



地域なんでも情報局

第9号

平成24年12月10日発行

長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281

女の都 包丁研ぎ五人衆



1本100円

包丁研ぎ会



きっかけ

市内各地区で、夏祭りや敬老会、餅つきや各種スポーツ大会など、住民同士の絆や交流を深めるための地域活動が行われていきます。一方で、東日本大震災以降、今まで以上に住民同士の絆の大切さが叫ばれている中、いかにして住民同士のふれあいや交流を深めていくか？自治会を中心に様々な試行錯誤が行われています。今回の特集では、女の都西部自治会で行われた「包丁研ぎ会」をご紹介します。

女の都西部自治会では民生委員や女の都ささえあいネットワーケ（※注1）とともに、町内から孤独死を無くするための活動を考える中で、民生委員だけではなく隣近所の住民同士で安否を気がけ合う気軽な見守り活動（通称「ふれ愛女の都活動」）が始まりました。一方で、高齢化の進行に伴い、普段顔を合わせる機会が少なくなった住民同士のつながりがなくなりにも併せて取り組む必要があるのではなにかという事になり、お祭りやスポーツ大会のようなものとは一味違うイベントを探していました。



掘り出し物は見つかりましたか？

そんな中、小江原第二自治会で行われているふれあい朝市を見学に行った際、会場の片隅で包丁を研ぐ男性陣の姿に「朝市は無理でもコレ（包丁研ぎ）なら知り合いにできる人もいるし女の都でもできるかもしれないね！」と女性陣が盛り上がったのがきっかけのこと。第1回目は雪のチラつく今年の12月。凍えるような寒さの中、「ありがとございます」の言葉に研ぎ手の男性陣はほくほくと合計60本近くの包丁を研いだとのこと。以後、「次はいつあるの？」、「うちの近所の公園でもして欲しい」との声が多く寄せられ、今回で3回目を向かえたそうです。

おしゃべりで絆も深まる

包丁を研いで頂いている間も楽しんでもらおうと、今回は家庭のタンスの奥で眠っていた不用品などを持ち寄り、即席のバザーも行われ、大いに賑わいました。また、会場内では焼き芋やお茶・コーヒなども振る舞われ、公園のあちらこちらでミニおしゃべり会が始まっています。「誰かとおしゃべりするだけで自然と笑顔になるね」、「こういうものがあるとご近所同士のコミュニケーションも良くなりますね」、「次が



おしゃべりは、健康の素ですね



ココがイイね！

今回のイベントは生活に密着したちよつとした困りごとの一つに着目した結果、普段地域行事には顔を出さない住民ともふれあえる機会にもなりました。また一方で男性陣の活躍の場や仲間づくりのきっかけを作り出すというプラスαの効果もあるように感じました。人と人をつなげるアイデアやヒントは意外と身近なところにあるのかもしれないね。

最終的に半日で研いだ包丁の本数は86本だったそうです。包丁研ぎ5人衆の皆様、本当にお疲れ様でした。

（※注1）女の都西部自治会の准専門部として、町内の有志で構成されたボランティアグループ。ゴミ出しや児童の登下校の見守り、広報活動など6つの部に分かれ、ささえあいの活動を行っている。



あの人！どんな人！こんな人！

山崎 房代さん 東琴平2丁目



11月15日に長崎市公会堂で行われた長崎市福祉大会において「社会福祉協力者」の表彰を受けてくれたのは、山崎房代さん。（長崎市東琴平在住）10年にわたり社会福祉協議会浪の平支部の会計を預かり、一人暮らし高齢者を対象とした「ふれあい食事サービス」の調理のボランティア20名のまとめ役として、地域の信頼も厚く精神的に活動しています。平成13年に定年退職して子どもさんも独立していたところ、同支部が主催する「ふれあい食事サービス」のお手伝いに声をかけられたのがきっかけでした。「知らない料理を覚えられて、自分のためにもなるから」と快く引き受けたそうです。何よりの喜びは、参加した方から「今日は美味しかったよ」、「うまかったらあ」の言葉に元気をもらったり話します。季節にあわせたメニューは、栄養士の資格を持ったボランティアを中心に話し合っ決めていきます。食材を買う費用には限りがあり、時にはボランティアの方が野菜を持ち寄ってくれるので助かるそうです。



このふれあい食事サービスには、毎回40人程、平均年齢80歳の一人暮らしの方が毎月参加しています。会食の他には、大浦地域包括支援センターによる血圧測定や健康相談、地元の医師による健康講話もあり毎回好評を博しています。課題は、浪の平の斜面地が増え続ける一人暮らし高齢者をふれあい食事サービスに誘い出すことが大変なことで、道端で会えば「一人で家におるより、食事会のあるけん出てこんね！」と声を掛け、回覧板に書いて回して地道な呼び掛けを続けておられます。山崎さんは、ふれあい食事サービスを通じてみなさんがふれあい・つながりあうのが楽しい。これからも続けていきたいと抱負を語りまわっています。



座談会スナッツ

今年度も市内数地区で住民座談会が行われました。どの地区も若者男女を問わずたくさんの方々にご参加いただき、賑やかな会になっていくようです。

高尾地区



ワイワイ 和気と

“井戸端会議”の様相!

銭座校区



土井首地区



親子でご参加いただきました!

第三十回 長崎市社会福祉大会

去る11月15日(木)、長崎市社会福祉大会が開催されました。今回で記念すべき30回目を迎える大会では、永年にわたり本市の社会福祉事業に携わってこられた福祉



施設等の職員の方々やボランティア活動をされている方々などの表彰や、赤い羽根共同募金や日赤社資募集の目標額を達成された地域への感謝状の贈呈が行われました。また、式典終了後に行われた特別講演では、フリータレントの「まなみさんに『出会いで道を拓く!』命が輝くように」と題してご講演をいただきました。障害を抱える子どもを持つシングルマザーとして、仕事や子育てに奮闘する毎日の中での数々の「出会い」の中で培われた前向きで明るい生き方。ラジオパーソナリティーとしても活躍されているごうさんの軽快な語り口に会場中が明るい雰囲気になりました。



ご協力をお願いいたします

謹啓 亡 儀 死去に際しましては、御丁寧な御弔問ならびに退分の御物御香典を賜り厚情のほど誠に有難く厚く御礼申し上げます。

御葬儀にてご明けた法事も滞りなく相済みましたが、長崎市社会福祉協議会へ社会福祉事業基金の一端として金一封を寄附させていただきます。香典返しのご準備は、地域福祉事業部にて対応させていただきます。お礼状は、お礼状の宛先を明記の上、お送りください。お礼状の宛先は、お礼状の宛先を明記の上、お送りください。お礼状の宛先は、お礼状の宛先を明記の上、お送りください。

平成二十四年十月

長崎市 社会福祉協議会
会長 西崎 武博

昔取った手柄

本会では高校生のインターンシップ(職場体験)の受入れを行っています。今年も11月上旬に長崎玉成高等学校から4名の生徒さんをお迎えしました。本会職員と一緒に、お邪魔した式見地区の高齢者ふれあいサロン(松崎ひまわり会)では、ワラジづくり体験させていただきました。年間を通じて様々な活動をしている松崎ひまわり会では、人生経験豊富な参加者がテーマによって教える側と教わる側になりながら仲良く活動を行っているそうです。ワラジづくりの指導は60年ぶりにいらいだと語る今先生を務めた岩本さん。「久しぶりにワラジづくりを教えました。覚えていてくれていいな。高校生も大満足の一日になったようです。」



長崎市社会福祉協議会では、香典返しのご寄附や、チャリティーバザー、会社の記念行事等の収益金の一部をお受けしております。皆様から寄せられたご寄附は、地域福祉事業推進のために有効に活用させていただきます。香典返しのご寄附をいただきますと、上記見本のとおりお礼状を準備させていただきます。皆様方の善意をお待ち申し上げます。ご不明な点は、お気軽にお問い合わせ下さい。

(長崎市社協 業務係 828-1281)

香典返しQ&A

Q1、香典返しをしたいのですが、どうすればよいのですか?
A1、香典返しのご寄附を希望される場合は、社会福祉協議会(本所・支所)の窓口にお持ちいただくか、あるいは、ご連絡いただければ社会福祉協議会からお伺いすることもできます。

Q2、いくら寄附をすればよいのですか?
A2、ご寄附は任意ですので、金額に決まりはございません。お気持ちで結構でございます。

Q3、お礼状は作成してもらえますか?
A3、社会福祉協議会の方で、お礼状(二つ折りのお礼状と封書で一部)をご用意の部数だけ作成させていただきます。なお、印刷代金は社会福祉協議会が負担いたします。

Q4、社会福祉協議会への他に別の団体にも寄附をした場合、お礼状に別の団体名も載せられますか?
A4、社会福祉協議会との連名で載せることができます。

Q5、お礼状の文面は決まっていますか?
A5、お礼状の見本を掲載させていただきますが、ご希望どおりの文面で作成できます。

Q6、キリスト教なのですが、お礼状を作成できますか?
A6、作成できます。ご相談下さい。

Q7、お礼状の宛名書きはしてもらえますか?
A7、お礼状の宛名書きはお受けしていませんが、ご希望であれば宛名書きを行っているところを紹介させていただきます。

あとがき

先日、三原リサイクルプラザを見学しました。大量のプラスチックゴミを目の当たりにして、「人間一人が一日に発生させるゴミの量ってどれくらいなんだろう?」そんなことがふと頭をよぎりました。家の中のゴミ箱からゴミ袋へ、そしてゴミステーションのカゴへ入れて、あとは収集車が来てゴミ処理場へ。自分から離れれば離れるほど心が薄れてしまいがちなゴミ問題

ですが、最終的な処理の実情を知るとリサイクルやゴミの減量化について考え直す機会になりました。「百聞は一見に如かず」皆さんも是非一度御見学下さい。(よいお年を)



一つずつ手作業で袋を破り、異物の除去が行われます(大変な作業です)。